

令和3年度 自己評価表（中間評価）

鳥取県立倉吉西高等学校

教育目標	校訓である「立志」の精神に基づき、自らの志（使命感）を明確に持ち、将来、地域貢献及び社会貢献のできる心豊かな人材を育成する。	今年度の重点目標	1 将来を見越した生活習慣の確立 2 キャリア教育の充実 3 主体的な学習姿勢の構築、及び学力充実 4 情報収集、情報発信の充実
中長期目標	1 道徳教育の充実 2 キャリア教育の充実 3 高い志の実現に向けた、学ぶ意欲の向上		

評価基準 A:十分達成〔100%〕 B:概ね達成〔80%程度〕 C:変化の兆し〔60%程度〕 D:まだ不十分〔40%程度〕 E:目標・方策の見直し〔30%以下〕

年 度 当 初					評 価 結 果（10月）		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
将来を見越した生活習慣の確立	○社会の一員として自覚ある生活習慣と表現力を身につける。 ○各種講演会や企業訪問等で学んだことを校内の生徒会活動等に活用する。	○全般的に挨拶はよくできている。 授業での分離礼や教務室への入室の挨拶については、まだ不十分である。 ○年間遅刻者は前年度より大幅に減少した。だが予鈴後登校者がまだ一部見受けられる。 ○授業の開始時間に着席できていない生徒が一部見受けられる。 ○西高祭をはじめとする生徒会行事では、生徒主体の企画・運営が定着し、クラス内や集会などで集団の一員として率先して動く生徒が増えた。	○校内はもちろん、地域の中においてもT P Oを意識した行動をとることができる。 ○年間遅刻者数及び予鈴後登校者を前年より減少させる。 ○いずれの授業もチャイムスタートと同時に開始できている。 ○前例にとらわれない生徒会行事を企画するなど、状況に応じて主体的かつ機動的に生徒会活動を行っている。	○挨拶や時間、期限の厳守ができない場合は、その場で正し、保護者との連携を密にする。 ○遅刻者数の見える化と教職員による登校指導を継続して行う。 ○授業担当者がチャイムまでに教室に行くと同時に、その場に応じた適切な指導を行う。 ○授業内でも意見を表現できる場面を設定する。積極的、意欲的な行動や姿勢の生徒を積極的に褒める。生徒会活動を通し、生徒が自己肯定感や達成感をもてるように指導する。	○概ね正しい服装で学校生活を過ごしているが、一部生徒の学校外での乱れが見受けられる。 ○予鈴後登校生徒は昨年度より半減している。 ○西高祭実行委員会や生徒会執行部などの働きかけにより、主体的に行動する生徒が増えてきた。 ○コロナ禍でできる学校行事の運営方法等を生徒から主体的に提案できている。	B	○生徒への指導の継続及び教員間の連携を密にする。 ○授業担当者がチャイムまでに教室に行くと同時に、その場に応じた適切な指導を行う。 ○生徒会運営にP D C Aサイクルを導入し、生徒自らが現状分析及び課題解決方策について検討していく。
キャリア教育の充実	○チャレンジグループ活動を通して、興味関心から進路目標決定までのプロセスを確立する。 ○ふるさとの素晴らしさを学び、郷土への愛着を深める。	○チャレンジグループ活動の発表会や探究活動を自らの進路につなげようとしている。 ○校内での発表であり、外部の客観的評価に触れる機会が少ない。 ○「フィールドワークイン鳥取」や地元企業の講演会を行い、ふるさとの素晴らしさを学んでいる。地元のボランティア活動に参加している。	○ステージが上がるごとに、探究活動への意欲や興味関心が高まり進路決定へ繋がっている。 ○よりよい社会を実現するためにSDG sの目標を意識し、シンポジウム等に2割以上の生徒が応募・参加する。 ○「フィールドワークイン鳥取」や地元企業の講演会を行い、学んだことを共有している。地元のボランティア活動に積極的に参加している。 ○地元自治体を生かした講演会やフィールドワークを生かし、地元の良さを理解する。	○チャレンジグループ活動の講演会、施設・企業訪問など機会をとらえ、社会に対する視野を広げるとともに、個別面談により適宜助言を行う。 ○生徒、教職員の連携を密にし、シンポジウム等への参加を成長の場面とともに、必要な支援を行う。 ○研修やボランティア活動を通し体験したふるさとの素晴らしさを発表し、共有する。 ○地元自治体の協力を仰ぎながら、生徒が地元を知る機会を増やす。	○チャレンジグループ活動を肯定的にとらえる生徒はステージが上がるにつれ増加しているが、「探究活動」としては不十分な内容が多く見受けられる。 ○新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、多くのボランティア活動が中止となり、実施率は低い。 ○若者地域づくり交流会や日本女性会議プレイベントなど、校外でのイベントやシンポジウム等に参加し、探究につながる活動をする生徒が増加している。	C	○地域に軸足を置いた新たなチャレンジグループ活動のあり方を検討中である。 ○シンポジウム等の情報を積極的に生徒へ情報発信し、参加することで学びや探究の刺激に繋げる。
主体的な学習姿勢の構築、及び学力充実	○全職員がI C T機器を効果的に活用し、生徒の学習意欲を高める。 ○生徒のI C T機器の計画的な活用を図り、主体的な学習者を育成する。 ○定期考査や校外模試結果を分析し、新入試に対応した学力の定着を図る。	○多くの教員が、プロジェクター等を活用した授業実践はできる。 ○I C T機器やGoogle Workspace for Educationを効果的に活用して授業実践、データ収集できる教員は少ない。 ○生徒がI C T機器を利用できるが、計画的に活用できる状態ではない。 ○校外模試目標偏差値を定めている。新入試の問題分析はできているが、教員間の共有や授業への活用は十分ではない。	○アクティブラーニングやI C T機器を活用した授業実践、Google Workspace for Educationを活用した学習の振り返りやデータの集約を行うことができる。 ○生徒がI C T機器の計画的な活用を図り、主体的に学習している。 ○生徒が自分の意見を表出するなど、授業をととして主体的な学習者へと変容している。 ○校外模試S1,S2 目標偏差値 48 以上。 11 月進研模試 S3 偏差値 48 以上 20 名以上。	○I C T機器の活用を取り入れた校内研究授業を行っていく。 ○データ集約や学習の振り返りでのGoogle Workspace for Educationの活用を進めるため、校内研修を実施していく。 ○授業のねらいを明確にし、生徒が主体的に取り組める発問や効果的なI C T機器の活用を行う。 ○新入試の問題分析を行い、授業に生かす。定期的に模試分析を行い、学力の定着を図る。	○Google Meet を活用した非常災害時のSHRの実施や課題配信、各授業でのI C T機器の活用など、生徒が活用できる仕掛けは進んでいる。 ○校内研究授業は今後実施予定である。 ○I C T機器を活用した授業等の深掘りにはつながっておらず、表面的な気付きに留まっている。 ○家庭学習の習慣が身についておらず、生徒の主体的な学びや学力の定着には至っていない。	C	○探究活動と学習を結びつけた学習のあり方について提示していく。 ○校内研究授業を実施し、生徒の主体的な学びに繋げる授業のあり方を全教職員で共有する。 ○I C T機器の効果的な活用について、職員研修を継続して行っていく。
情報収集、情報発信の充実	○ホームページなどを活用し、学校の方針を計画的に発信する。	○ホームページの更新に努めているが、すべての情報を発信できていないわけではない。 ○季刊倉西を年4回発刊している。 ○学校評議員会・学校関係者評価委員会を学校運営協議会へと移行する。	○各ステージ、各グループ、各部活動を時機を逃さずホームページを活用し、必要な情報を発信している。また、中学生や地域の方々等に分かりやすいものになっている。 ○学校運営協議会の意見を活用し、地域と連携した特色ある教育施策を実践する。	○各ステージ、各グループ、各部活動で行事、大会毎にホームページを更新する。また、ホームページの項目毎に情報を整理していく。 ○学校運営協議会と連携し、地域の理解を得た学校運営を推進する。	○必要な情報を随時ホームページにより発信できているが、更新されていない部活動情報もある。 ○新たに公式Instagramを開設し、より積極的な情報発信を行っており、フォロワー数も増加している。 ○学校運営協議会での意見をもとに、今後の学校運営計画を作成中である。	B	○引き続き、時機を逃さない情報発信に努める。
業務改善の取組	○会議、委員会の精選 ○時間外業務時間の削減	○会議が連日行われている時期があり、その内容も重複したものもある。 ○令和2年度の時間外業務時間が360時間／年となった職員が複数名あった。	○会議、委員会の精選が進み、業務改善が図られる。 ○令和3年度の全ての教職員の時間外業務時間が360時間／年以下となり、業務改善が進んでいる。	○会議回数の精選、資料の事前確認、提示等により、業務改善を進める。 ○「倉吉西高等学校部活動に係る活動方針」の遵守を徹底する。	○会議資料のデータ配信による業務削減が図られている。 ○会議の精選及び実施回数の精選により、時間外業務削減につながっている。 ○業務内容の偏りが見られ、グループ制のあり方を含めて見直しが必要である。	B	○今後も会議の精選及び会議運営に係る見直しを積極的に行っていく。 ○グループ制再編成案を作成し、検討を加え、令和4年度からの運用に努める。